

令和7年度 事業報告

I 新しい但馬づくりを担う人材等の育成に関する事業

多彩な魅力を再認識、再発見することにより、新しい但馬づくりを担う人材を育成するため、次の事業を行った。

1 未来を担う人材育成事業

住民が主体となった地域活性化を推進するため、幅広い年代を対象とした地域づくりの人材育成を展開した。

(1) たじま未来づくり講座の開催

自然・歴史・文化など多様な地域資源を活用し、知る・学びの場を提供することで、より多くの住民に地域づくりについて関心を抱かせ、但馬を担う人材の育成と裾野の拡大を図るために、14 講座を実施した。

- ① 期 間 令和7年4月26日～12月7日
- ② 会 場 但馬長寿の郷ほか但馬各地
- ③ 受講者数 81人
- ④ 講座内容 共通8講座（座学）、選択6講座（現地） 計14講座

開催日	内 容
4/26(土) 〈座学〉	共通① 【特別講座】 但馬の子どもたちの活躍を知る『養父太鼓 鼓彩』 共通② 【講 演】 『北但大震災から100年を迎える今 気候変動と防災について』 講師 蓬萊 大介 氏（読売テレビ気象キャスター） 但馬長寿の郷 郷ホール
5/24(土) 〈現地〉	選択① 但馬の養蚕文化を知る 養蚕の神様『上垣 守国』 養父市大屋町
6/1(日) 〈座学〉	〈特別講座〉 共通③ 第11回おんぷの祭典 ファイナルコンサート鑑賞 豊岡市民会館 文化ホール
6/21(土) 〈現地〉	選択② 北但大震災から100年を迎えた「復興まちづくり」 豊岡市中央町～元町
7/26(土) 〈現地〉	選択③ 黒川ダムと『あさご芸術の森美術館』 【JR利用】 朝来市生野町～山東町
8/9(土) 〈座学〉	〈特別講座〉 共通④ 但馬文教府「サマーカレッジ」 コミュニケーションの楽しみ方～笑顔とハッピーボイスで話そう～ 講師 坪内 美樹 氏（トーキング・プランナー） 但馬文教府 ふるさと交流館
8/23(土) 〈現地〉	選択④ 香美町をめぐる魅力再発見ツアー ～ ジオパーク香住海岸めぐり など ～ 美方郡香美町

開催日	内 容
8/31(日) 〈座学〉	共通⑤ たじま・まちづくりカフェ ～ 身近な地域づくりを考える ～ アドバイザー：山室 敦嗣 氏 (兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科 教授) 事例発表「地域の元気と安心を考えよう」 小田垣 聡 氏 但馬長寿の郷 郷ホール
9/27(土) 〈現地〉	選択⑤ 情緒あふれる但馬の小京都『出石』 豊岡市出石町
10/18(土) 〈現地〉	選択⑥ 浜坂の針産業と山陰海岸ジオパーク 美方郡新温泉町浜坂
11/8(土) 〈座学〉	＜特別講座＞ 共通⑥ 『旅と健康のちょっといい話』 講師 高橋 伸佳 氏 (芸術文化観光専門職大学 教授) 共通⑦ 『人が「集まる」ということ そしてその「場所」について』 講師 井原 麗奈 氏 (芸術文化観光専門職大学 講師) 但馬長寿の郷 郷ホール
12/7(日) 〈座学〉	共通⑧ 第20回 但馬検定 豊岡稽古堂、但馬長寿の郷



糸引き体験（かいこの里交流施設）



ジオパーク香住海岸散策（香美町）



まちづくりカフェ（但馬長寿の郷）



蓄音機視聴体験（松籟庵）

(2) たじま未来探検隊の実施

但馬の将来を担う子どもたちに、優れた技術を持つ企業や地域資源を利用した活動等について学ぶ機会を提供し、地元への愛着や誇りに思う心を育み、住み続けたい、将来戻りたいという気持ちを醸成するために、①北たじまコース、②南たじまコースの2コースを企画し実施した。

① 北たじまコース

実施日 令和7年8月8日

参加者 38名 (当日、体調不良により2名欠席)

内容 コウノトリ但馬空港見学、出石まちあるきとそば打ち体験、かばん手作り体験

② 南たじまコース

実施日 令和7年8月18日

参加者 40名

神子畑選鉱場跡と生野銀山坑道見学、フォレストアドベンチャー・朝来でのアスレチック体験



コウノトリ但馬空港見学



出石城下町まちあるき



生野銀山坑道見学



フォレストアドベンチャー・朝来

2 但馬検定事業

但馬の自然・歴史・文化などを幅広く楽しく学ぶことで、地域の魅力を再発見し、但馬内外にその魅力を発信する機会として実施した。

(1) 第20回但馬検定の実施

- ① 試験日 令和7年12月7日
- ② 試験場所 豊岡稽古堂、但馬長寿の郷
- ③ 試験結果 下表のとおり

※表中、()内は前回の内容

問題 100 問 100 点満点	上級の部【1級・2級共通】		初級の部	計
	1級【80点合格】	2級【60点合格】	3級【70点合格】	
申込者数	51 人(53 人)	34 人(27 人)	68 人(69 人)	153 人(149 人)
受検者数	45 人(46 人)	30 人(21 人)	62 人(58 人)	137 人(125 人)
合格者数	16 人(26 人)	19 人(17 人)	41 人(46 人)	76 人(89 人)
合格率	35.6%(56.5%)	63.3%(81.0%)	66.1%(79.3%)	55.5%(71.2%)
平均点	76.4 点(79.8 点)	65.4 点(73.3 点)	73.9 点(82.5 点)	
最高点	94 点(93 点)	84 点(90 点)	98 点(100 点)	
最年少合格者	38 歳(33 歳)	25 歳(25 歳)	20 歳(19 歳)	
最高齢合格者	81 歳(80 歳)	73 歳(74 歳)	78 歳(79 歳)	



豊岡稽古堂試験会場



但馬長寿の郷試験会場

(2) ウェブサイト「ザ・たじま」の運営・活用

子どもを含めた幅広い世代が但馬の地域情報に楽しみながら触れる機会として、但馬検定公式サイト「ザ・たじま」を管理運営し、サイトを活用した学びの場を提供した。

- ① ウェブ版但馬事典「ザ・たじま」の情報更新
- ② 「過去問で受検対策」など、但馬検定関連情報を提供
- ③ ふるさと出前講座の実施

近畿大学附属豊岡高等学校の2年生のうち、「総合的な探究の時間」に「観光・イベント」を選択しているグループ35名に対して、但馬検定の模試試験と解説を実施し、但馬を楽しく学ぶ但馬検定をPRした。

・実施日 令和7年7月12日



出前講座の様子

Ⅱ 交流促進による新しい但馬づくりに関する事業

但馬地域内外との交流促進や地域情報の発信等を通じ、交流・移住人口の増加、地域活性化及び観光振興を図るため、次の事業を行った。

1 但馬の魅力発信事業

各種広報媒体を多角的に活用し、観光・自然・イベント・ニュースなど但馬に関するあらゆる情報をタイムリーかつわかりやすく提供した。

(1) ウェブサイト「但馬情報特急」等の運営

ウェブサイト「但馬情報特急」やインスタグラムを活用し、但馬のポータルサイトとして、但馬に関する最新の情報、魅力ある情報を多分野にわたり収集し、発信している。

ア ウェブサイト「但馬情報特急」

- ① ページビュー数 672,121 件（令和8年3月末現在）
- ② ユーザー（訪問者）数 399,341 人（ ” ）

イ 公式インスタグラム

- ① 投稿 86 件
- ② フォロワー数 1,155 人（令和8年3月末現在）

(2) インフルエンサー まさかず氏との連携

フォロワー数6万人超を誇るインフルエンサーまさかず氏（山陰北近畿魅力発信）と「但馬情報特急」とのタイアップ・共同投稿を実施し、SNSを通じた情報発信力の強化と認知度向上を図った。あわせて、但馬地域の魅力や話題をより幅広い層へ届けることで、「但馬情報特急」のPRにつなげた。

- ① 期 間 令和7年4月～令和8年3月
- ② 内 容 1か月につき2回の投稿。（報酬は、50,000 円/月）
※4月～9月は1回の投稿、報酬は25,000 円/月



furusatotajima

但馬情報特急

投稿92件 フォロワー1234人 フォロー中315人

(公財) 但馬ふるさとづくり協会が運営するWEBサイト「但馬情報特急」のInstagram。「きっと、もっと但馬が好きになる♪」そんな情報を皆さんにお届けします！当協会が運営する但馬ファンクラブに関する情報はこちらで発信していきます！



公式Instagram



四月イベント...



三月の但馬FC...



二月の但馬FC...



2026未来づく...



三月イベント...



1月の但馬FC...

(3) 情報誌「T2」の発行

但馬の魅力あふれる地域資源や取組をクローズアップするとともに、観光・イベント等の旬な情報を掲載する情報誌を発行した。

- ① 発行時期 年3回 [夏号(6月)、秋冬号(10月)、春号(2月)]
- ② 発行部数 各7.4万部
- ③ 配布先 但馬全戸、但馬ファンクラブ会員、同協賛施設、旅行会社、報道機関、金融機関など



(4) 但馬ツーリズムマップの発行

交流人口を拡大するため、但馬の周遊観光に便利な、地域の魅力・見どころをまとめた観光マップを発行した。

- ① 部数 17,500部
- ② 配布先 観光協会、道の駅、観光施設、宿泊施設など

2 たじま暮らし推進事業 [県民局からの委託事業]

但馬地域への移住・定住を促進するため、ひょうご北部移住定住相談窓口「たじま暮らしサポート BASE」を運営し、移住希望者への情報提供や支援事業を実施した。

(1) 移住相談員の配置

移住相談員を2名配置し、U・Iターンを考えている方への移住相談や各市町、関係団体と連携した移住支援を行った。

- ・相談件数 301件 (令和8年3月末現在)

(2) たじま暮らし情報の発信

たじまU・Iターン情報サイト「ひょうご北部で暮らす」や移住マッチングサイト「SMOUT」、但馬の若者による若者向けのウェブサイト「20GRAPHIE」等を活用して、たじま暮らしに関する情報を提供した。

(3) 移住イベント等の実施・出展

県民局、市町、関係団体等と連携した移住・定住促進イベントを実施するとともに、各種団体が主催する移住イベントに出展した。

① 移住促進イベント等への出展

県外在住の移住希望者をターゲットとし、各種団体が主催するイベントに管内市町とともに「オール但馬」として参加し、来場者の相談に対応した。

- ・ふるさと回帰フェアほか 12回（東京、大阪、オンライン）

② 二十歳の記念無料フォトイベント「20GRAPHIE」の実施

- ・実施日 令和8年1月11日
- ・内 容 新温泉町「二十歳のつどい」にあわせ、会場隣接の町民センターにて、「たじま暮らしサポート BASE」公式LINE登録等に協力いただくことで、記念写真を無料撮影。あわせてウェブサイト「20GRAPHIE」等へ誘導し、地元情報（求人、イベント等）を発信することで、交流機会の創出や将来のUターン促進を図った。
- ・参加者 11組 36人（うち二十歳該当者は29人）



ふるさと回帰フェア 2025（東京国際フォーラム）



20GRAPHIE in 新温泉町

(4) オーダーメイドツアーの実施

但馬地域への移住や二拠点居住を具体的に検討している方を対象に、住まい、仕事、生活、子育て環境等の個々のニーズに応じた現地案内を実施している。

また、仕事探しを支援するため、企業見学や就労体験、先輩移住者へのヒアリング等、個々の希望に応じた仕事体験ツアーも実施している。

9月末頃から企業募集を実施し、令和8年3月末現在で2件の応募があった。

① たじま移住体験オーダーメイドツアー

- ・実施回数 12回（令和8年3月末現在）
- ・内 容 地域や各種施設の案内、先輩移住者との面談など

② たじま「仕事×暮らし」体験ツアー

- ・実施回数 12回（令和8年3月末現在）
- ・内 容 自然農業の見学・体験、林業体験など



オーダーメイドツアー（先輩移住者の体験を聞く）



「仕事×暮らし」体験ツアー（農作業体験）

（５）移住者受け入れ体制の強化

移住者や移住希望者の交流機会を設定するなど、移住者同士のつながりづくりを支援することで、移住後のフォローアップ体制を強化し、移住者が安心して暮らし続けられる環境づくりを推進した。

① 移住者交流会（「たじま暮らしミーティング in 香美町」）の開催

- ・実施日 令和8年3月7日
- ・内 容 移住を検討されている方や既に移住された方、地域の方が、立場や市町の枠を越えて気軽につながり、香美町での暮らしを具体的にイメージできるよう開催した。

美方郡特産の「美方大納言小豆」を使ったおはぎづくりワークショップと、地域おこし協力隊などのゲストの取り組み紹介のあと、フリートークの時間を設け、参加者同士の意見交換及び交流の促進を図った。

- ・参加者 26人 内訳：香美町11人（移住者4人、地元7人）
豊岡市10人（移住者8人、地元2人）
新温泉町 地元4人、神戸市1人（移住予定者）

② 先輩移住者マップ（TAJIMA TURNS MAP）の作成

たじまU・Iターン情報サイト「ひょうご北部で暮らす」に、但馬に移住してきた方（先輩移住者）の情報を掲載し、移住希望者が直接会って体験談や暮らしぶりを聞ける機会を設けることで、移住先検討段階での地域との繋がりを支援した。



TAJIMA TURNS MAP

Ⅲ 自然と調和した新しい但馬づくりのための自然環境保全活動に関する事業

但馬の美しい自然環境の保全や住民の環境保全に対する意識の向上、豊かな自然を生かした活動等を推進するため、次の事業を行った。

1 美しい但馬づくり支援事業

(1) クリーン但馬 10 万人大作戦への支援

但馬全域で環境美化活動を行う「クリーン但馬 10 万人大作戦」に要する経費の一部を助成した。

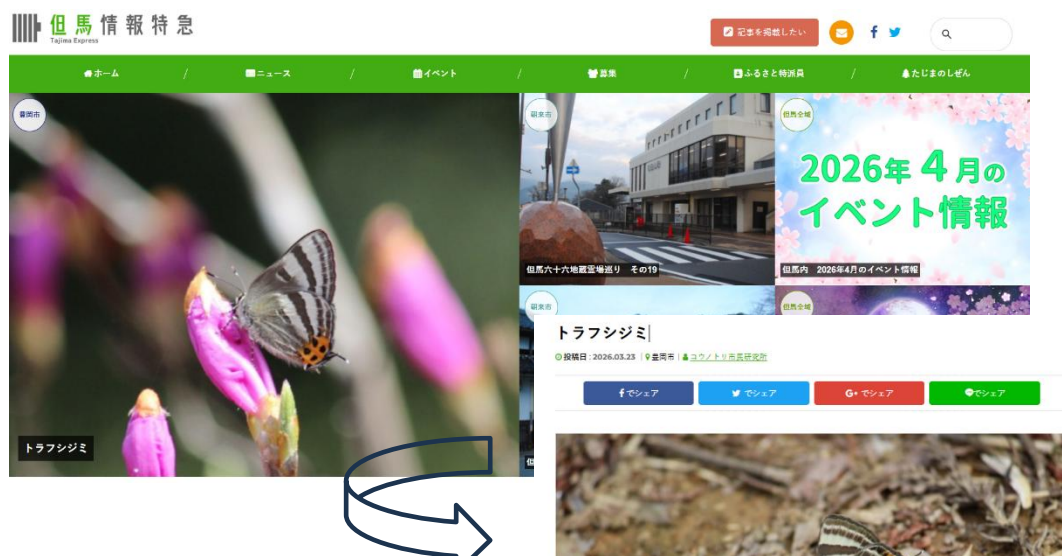
- | | |
|--------|---|
| ① 対象団体 | クリーン但馬 10 万人大作戦推進協議会 |
| ② 活動内容 | 但馬全域の住民や企業、各種団体が参加する清掃・美化活動
平成2年から毎年実施され、大規模な環境美化活動として定着 |
| ③ 助成額 | 100 千円 |

2 自然環境学習事業

(1) 「たじまのしぜん」ブログの発信

但馬の動植物を紹介・解説する記事をウェブサイトで発信し、自然の豊かさや自然環境の保全について啓発した。

- | | |
|---------|--|
| ① 発信ツール | ウェブサイト「但馬情報特急」の「たじまのしぜん」コーナー |
| ② 内 容 | 但馬に生息する動物、鳥、魚、昆虫、植物等について、専門家がわかりやすく解説した記事を毎週掲載 |
| ③ 記事制作 | NPO 法人コウノトリ市民研究所に委託 |



ウェブサイト「但馬情報特急」の「たじまのしぜん」コーナー記事

トラフシジミ

4月のはじめ頃、ミツバツツジやスミレ類が咲く明るい里山でよく出会うのがトラフシジミです。同時に見られるルリシジミやツバメより少し大きく、後ろ翅の裏面にあるオレンジの斑が特徴です。白い結核斑は広範囲に分布。翅の裏側は濃い青色です。蛹で越冬しているため、春早く、新鮮な個体を見ることができます。

IV その他の事業

1 但馬ファンクラブ事業

但馬の魅力をPRし、ファン・リピーターを拡大する事業を展開し、地域内外の住民の交流促進、地域活性化及び観光振興を図った。

(1) 加入状況（令和8年3月末現在）

会員数 1,508 人（1年会員、3年会員の総数）

(2) 但馬ファンクラブの運営

但馬を楽しんでいただくための会員へのサービスを実施した。

- ① 協賛施設での割引等が受けられる会員パスポートの発行
- ② 但馬の情報誌等（T2、パンフレット）の送付（年3回）
- ③ 但馬の特産品等のプレゼント（年3回、抽選で計150名）
- ④ 但馬内のミュージアム等無料招待券の配付
 - ・実施期間 4月1日～11月30日
 - ・対象施設 玄武洞ミュージアムほか8施設
 - ・利用者数 454人



但馬の特産品プレゼント



ミュージアム無料招待

⑤ 会員限定バスツアーの開催

協会設立30周年を記念して、日本遺産「鉱石の道」を巡るバスツアーを実施した。

- ・実施日 10月4日
- ・内容 明延鉱山、神子畑選鉱場跡及び生野銀山を巡り、日本遺産「鉱石の道」のストーリーをガイドを受けながら見学した。
- ・参加者 18名（応募者数51名、抽選により20名決定。当日2名欠席）



明延鉱山坑道内の見学



神子畑選鉱場跡（シックナー）

（３）入会のPR活動、協賛施設の拡大

会員獲得のため、キャンペーンや各種事業とのコラボレーションを実施した。
また、インフルエンサーとの連携等により、協賛施設の拡大に努めた。

① 新規会員獲得のための入会促進事業

コウノトリ但馬空港の「空の日スペシャルイベント」や、兵庫～五国～移住・交流フェア（東京、大阪）のイベントブースで、新規入会キャンペーンを実施し、入会者には但馬の特産品が当たる特別抽選会を行った。

- ・実施回数 3回

- ・新規入会者数 19名（令和8年3月末時点）

② 但馬外のリピーターが多いイベント等との連携企画の実施

イベント応募者等に但馬ファンクラブの1年会員権を進呈した。

- ・播但道キャンペーン…当選者 150名（応募者 291名）

（播但道のSA、PA等に設置のスタンプ押印で応募可。）

- ・豊岡演劇祭 2025 …「うずまくパス」購入者 30名



空の日スペシャルイベント（コウノトリ但馬空港）



兵庫～五国～移住・交流フェア in 東京（東京交通会館）



播但道キャンペーンのスタンプ台紙

③ 新リーフレットの作成

会員パスポートを実際に利用し、特典を受けて「得をした」体験をストーリー仕立てで紹介する漫画形式のリーフレットを新たに作成し、既存のリーフレットと併用して活用することで、より効果的な入会促進効果の向上を図った。



新しく作成したリーフレット

④ インフルエンサー まさかず氏との連携

まさかず氏に、但馬ファンクラブ会員として協賛施設を利用し、「但馬情報特急」とのタイアップ・共同投稿を実施してもらうことで、当該発信を協賛施設加入のメリットとして活用し、新規協賛施設の獲得につなげた。

協賛施設数 233 件（令和 8 年 3 月末現在）

うち、令和 7 年新規加盟施設数 14 件

V 会議の開催

公益財団法人但馬ふるさとづくり協会定款の規定により、理事会及び評議員会を次のとおり開催した。

1 理事会

(1) 第 75 回理事会

- ・期日 令和 7 年 5 月 22 日
- ・場所 豊岡健康福祉センター

(2) 第 76 回理事会

- ・期日 令和 7 年 7 月 14 日
- ・場所 定款第 30 条第 2 項の規定に基づく決議の省略による書面決議

(3) 第 77 回理事会

- ・期日 令和 8 年 3 月 3 日
- ・場所 豊岡健康福祉センター

2 評議員会

(1) 第 32 回評議員会

- ・期日 令和 7 年 6 月 24 日
- ・場所 豊岡健康福祉センター

(2) 第 33 回評議員会

- ・期日 令和 8 年 3 月 10 日
- ・場所 豊岡健康福祉センター

(令和8年7月8日理事会決議(決議の省略)により承認)

令和7年度事業報告書(追加資料)

令和7年度事業報告書について、次の事項を追加資料として整理し、同事業報告書の一部とする。

1. 公益目的事業の実施状況

公益目的事業の実施状況は、令和7年度事業報告書2ページから10ページに記載のとおりである。

2. 運営体制の充実を図るための取組

法人の運営体制の充実及びガバナンスの強化を図るため、令和7年度において次の取組を実施した。

- (1) 資金運用の適正かつ効率的な実施を図るため、資金運用規程を制定した。
- (2) 事業に係るバス借上げ等について、複数事業者から見積書を徴取する運用を導入し、契約事務の透明性及び適正性の確保を図った。
- (3) 理事会の実効性の向上を図るため、地域性や業種等のバランスを考慮したうえで、新たに外部理事を選任した。
- (4) 理事会及び評議員会において、理事、評議員及び監事の役割や責務について改めて確認を行い、役員のガバナンスに対する理解の促進を図った。